

子どもの学びを変えるために

なぜドリルばかりするのか～指導と評価の一体化、今こそ！

2020.01.06

No.85

校長 渡邊 幸二

4月から学習指導要領が改訂され、学校の教育自体が大きく変わろうとしています。以前もお話しましたが、この変化は非常に難しい変革になると思っています。それは、これまで『学校 Ver.1.0』だった「教える」が主流の教育活動から、『学校 Ver.2.0』の「学び合い」が主流の教育に大転換するからです。
 (参照：右「Society 5.0に向けた学校 ver.3.0」)幼虫がさなぎに変態するような、そんな全く違う形態のものに変化するイメージだと思っています。



これまで「幼虫」としていそしんできた一斉授業スタイルが、新しい教科書で教えれば、何もせずに今まで通りの教え方で「さなぎ」に変わるのかと言ったら大間違いでしょう。(幸いにも、浜田小はすでに Ver.2.0 の入り口に立っているが)

指導者側の教師ですらこんな状態なのですから、子どもや保護者の方にとっても、教育がどう変わるのか、これからの勉強では何が大切にされるのかはまだまだ見えない状況なのではないかと思っています。

指導と評価の一体化

昔からよく「指導と評価の一体化」ということが言われてきました。左の図のように、学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするために行われなければなりません。

- ✔ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ✔ 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ✔ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

文科省「学習評価の在り方ハンドブック」より

では、現在のいわゆる「通知表」における評価はどうなっているでしょう。

学習の観点(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」)に変わることに伴い、来年度の通知表も変更があるようですが、左上の図の3項目のような大胆な変更までは行ってないかもしれません。おそらくは通知表を開いた左側がABCで、右側に総合や外国語等の評価や所見というスタイルだと思っています。もちろんそれでもいいのですが、おそらくそのままでは教師の指導と評価の一体化にも、子どもたちや保護者の方の授業観の変革にも効力を発揮しない、今まで通りの Ver.1.0 の評価にしかならないでしょう。

そして、先生の授業もこれまでとさして代り映えしないまま、子どもたちの勉強と言えばドリル学習が中心のまま…。

なぜドリルばかりするのか

子どもたちに家庭学習で自学をするよう指示すると、たいていの子どもはドリルをするでしょう。それは何も考えなくてよい、ある意味楽な作業であるからが理由だと思います。しかし、親にとっても、もしかすると我々教師にも、未だに「月テストの結果が…」「漢字の力が…。計算力は…」と、そこにばかり注目した評価(所見や談話)が多くはないでしょうか。当然ですが、そういう評価では、「ああ、大事なのは漢字・計算の力だ」「ドリル学習させねば!」という考えになってしまうのも否めません。



“何が大切なのか”の共有

これからの社会にとって、つまり今の学習にとって何が大切なのかを、評価を通して子どもたちにも、保護者の方にもしっかりと伝えていかなない限り、おそらく「自学＝ドリル」の図式を変えることはできないでしょう。この“これからの社会にとって、今の学習にとって何が大切なのか”をしっかりと議論しないと、そして私たち指導者自身がきちんと共有していないと、いつまで経っても評価も、そして指導も変わらないのではないのでしょうか。

先も言いましたが、幸いにも浜田小学校はすでに Ver.2.0 の入り口に立っていると思いますが、通知表自体はもしかするとまだ学校 Ver.1.0 のままです。我々自身が、どんな学びをする子どもを目指しているのか、つまりは「主体的・対話的で深い学び」をどんな姿と捉え指導していくのか、そこをまずは確定して、評価の柱としていかなければならないのです。

通知表の法的位置

ちなみに、通知表というのは、法律上の定めや学習指導要領上の決まりとしては何もありません。各学校が、ある意味勝手に作成して配付しているものです。ですから、学校によってその形式がちがうのもそのためです。極端に言えば、なくてもいいし、年間5回発行しても構わないのです。一方、指導要録は通知表と全く別物で、学校教育法施行規則という法律に則った、法的根拠のある、つまり法的に作成の義務のある評価物です。



ということは、浜田小学校の通知表は、もっとオリジナリティのある、浜田ブランドに直結する通知表であっていいのです。どうせ作るのなら、「こんなの見たことない」「こういうことをがんばることが大切なんだ」と一目でわかる、そんな通知表を作ったらいいと思います。そうすることが、「指導と評価の一体化」につながり、子どもたちの豊かな学び合いにつながるものだと確信しています。